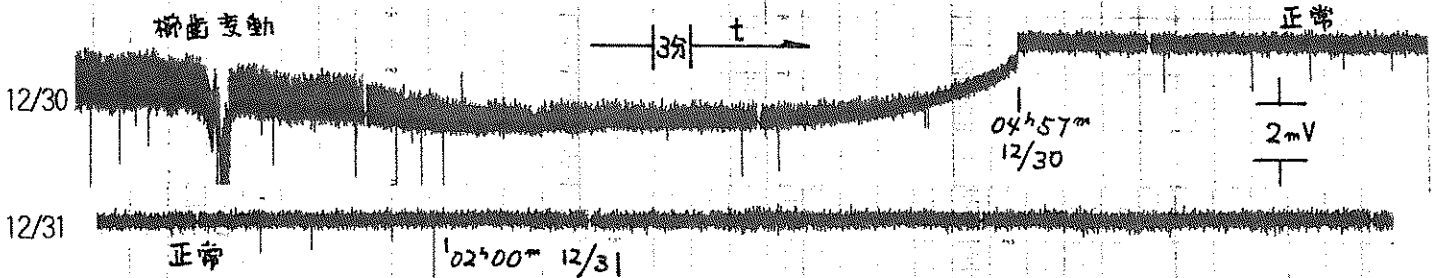


原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 近畿圏地殻大型地震推定前兆続報 CH12 櫛歯終息



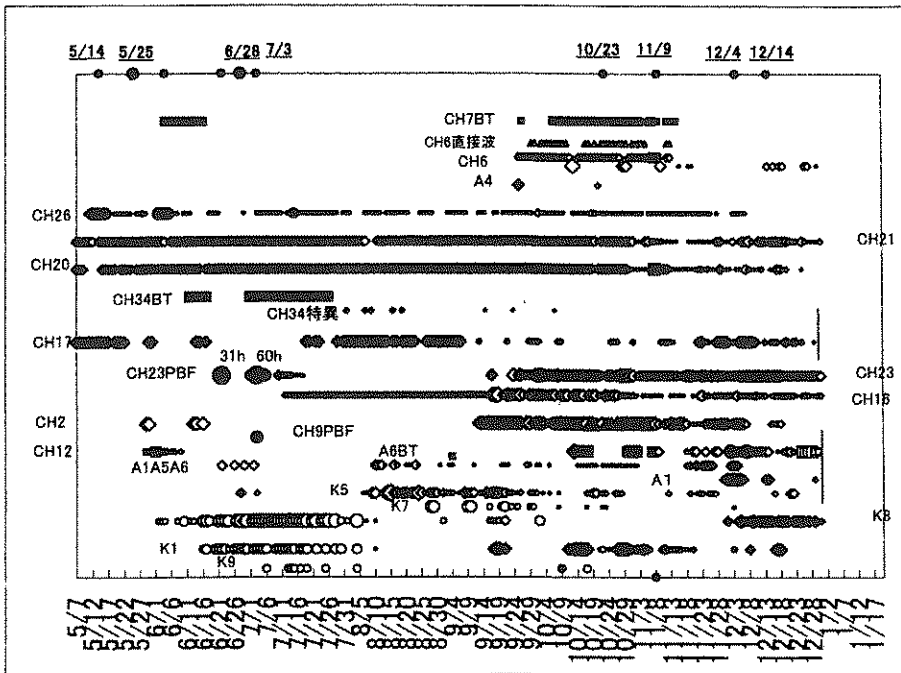
現況報告

No.1778=4年半継続する最長継続前兆で特殊形態前兆についての続報現況報告です。

左図に示した前兆出現状況図のとおり、第4期前兆群には、約6個の極大が認識されます。5/25, 6/28, 10/23 は良好に認識できますが、11/9極大は不確か。また12/4としている極大は、12/1と12/7の極大の中心をとっています。各々極大の可能性も有。12/14 極大も12/18を極大認識した方が良い可能性も有。12/26にも小ピーク認識は可能。つまり、

- 5/25極大 — 直前特異極大 12/1
- 6/28極大 — 直前特異極大 12/7
- 10/23極大 — 直前特異極大 12/26

と云う出現形態の可能性も有。但し12/18にも小極大認識ができます。しかし従来通りの認識
5/25極大(11/11±) 左の様に6個の極大認識
6/28極大(11/20±) 識です。12/14は12/18
10/23極大(12/20±) の可能性が有。左()
11/9 極大(12/24±) 内は仮に1/8±発生の場合の前兆終息計算時期です。
12/4 極大(12/30±)
12/18極大(1/3 ±)



上波形のとおり、11月中旬から特異状態が出現し、12/25からは顕著櫛歯変動で基線幅増大の様に見えたCH12は、12/30未明に終息し、本日12/31も正常通常基線を記録致しました。CH12, CH17等が12/30に終息となった可能性も有。現在継続出現中の前兆は、「CH16, CH21, CH23」と「K8」のみです。

仮に1/8±が発生の場合で、上記極大認識が正しい場合は、最終極大12/18に対する前兆終息が、1/3±と計算されます。1/3 ±に前兆が全て終息すれば、1/8 ±発生の可能性が高くなります。しかし、左記の前兆のいずれかが継続したままとなった場合は、1/8 ±に次段階前兆群の極大が出現する可能性も有。

現況としては、上記のとおりです。前兆は本日現在も継続出現中。仮に12/18が最終極大の場合は、1/3 ±に前兆終息が確認できることとなりますが、12/26にも小極大がある場合は、仮に1/8±が推定日の場合は、 $T_{map}=13$ 日となり、 $T_{map}:T_{pp}=3.9:1$ 経験則から、静穏期間は約3日となり、前兆終息時期は1月5日±となります。

上最長継続4年半と云う極めて特殊な前兆形態です。従いまして、現在考えられる可能性として、様々なパターンを考慮して考察していますが、わからないことは判りません。また初めての体験前兆であるため、規模推定が正しいのか、領域推定も正しいのか(CH20のPBFだけで、東北領域から近畿領域へ修正)再考を続けていますが、どこかで間違いをしている可能性や、初めて体験する現象のため、過去例とは合わない結果となる可能性もあり得ることを、何卒ご認識ご理解下さい。

従って、1月6日の時点で、また顕著に前兆が継続していることが観測された場合は、1月8日±の発生の可能性は考えにくくなることとなります。第5段階の次前兆群の極大が出現し、更に前兆が継続する可能性があることとなります。

PHP新書をお読み戴けたらお判りと思いますが、今回の解析推定が間違っており、異なる結果となる可能性も完全否定はできないことを、ご理解下さい。1月上旬の変化は続報させて戴きます。

PHP新書「地震予報」に詳しく書きましたが、今回の前兆は、初めて体験する前兆形態であり、しかも前兆期間が観測歴